

住ま

*…壁の演出

リフォームの要望をうかがうと、開口一番、「この壁をとりたい」と言われることが多い。こま切れの間取りより広々としたワンルームを望む気持ちはよくわかるが、壁は邪魔という発想には「ちょっと待って」と言いたくなる。

地震の揺れに抗して建物を支えたり、配線や配管を隠したり、スイッチやコンセントを設置したりと、壁にはさまざまな役割がある。そして何よりも絵を掛けたり、お気に入りの家具を配置したりするにも壁は必要だ。リフォームで残さざるを得なかった壁が、1枚の絵で魅力的な場所に交

Let's リフォーム

西田恭子

照明を組み込んだ玄関のニッチ



わることもあれば、飾りたて、リフォーム時によくご提案するのはニッチである。これは壁の一部を後退させて、絵やちょっとした置物を飾れるようにした場所のことだ。コストがさほどかからず、壁の厚みを利用するので、限られたスペースにも作ることができ

先日、アートギャラリーの方にお話をうかがう機会があった。絵を壁に飾るときは、絵の中心が床面から1.5〜1.6倍の高さにくるとよく、幅は壁面の1

／2から1／3とするのがバランスがよいという。感覚的に決めている場合が多いだろうが、数値化されるとわかりやすい。そして壁面の演出方法とし

る。

底面にはカウンター材を敷く形が一般的だが、飾りたいものやスペースに合わせてさまざまな形や素材でデザインすることができ

をたくさんお持ちなら、リビングの一面や廊下の大きな壁面にビクチャールールをつけて、ギャラリール展示するのもいいだろう。いずれにしても照明を合わせて計画することがポイントだ。ニッチへの光のあたり方で部屋の雰囲気は大きく変わってくる。

(三井のリフォーム 住生活研究所所長・一級建築士)

ニッチで部屋の変化を楽しむ

廊下を楽しむ空間にしたニッチ



ぐいのみこのレクシオンを飾るためにニッチを付けたケースもある。宴会のときにはお客さまが、それぞれお気に入りの器をここから選ぶのだという。絵